

# 活性化する兵庫県三田市での里地里山の保全活動

兵庫県三田市は緑豊かな環境を有し、里地里山保全活動が活発な地域です。兵庫県阪神北県民局の、里山をテーマとしたエコミュージアム事業「北摂里山博物館」の重要地点に7箇所の里山が選ばれるなど、県立有馬富士公園で全国育樹祭が開催された2005年以降、市内の里地里山保全活動はさらに発展しています。中央公園ではササユリの保全や自動撮影装置を使った動物の調査が精力的に行われています。ここではそれらの活動のうち、当館との関わりの深い特徴的な活動を紹介します。

## ブイブイの森(三田市狭間が丘 南公園)における「まちなか」の里山保全

ブイブイの森はフラワータウンのニュータウン開発の際に風致公園として残された約15haの森林で、フラワータウンの植物種数の約5割が生育する貴重な生態系です。ブイブイの森が2008年に三田市に移管されたことをきっかけとして、2010年から三田市と当館の協働により里山育成プロジェクトが始まりました。2013年には三田市が「まちなか里山公園整備方針」を発表、

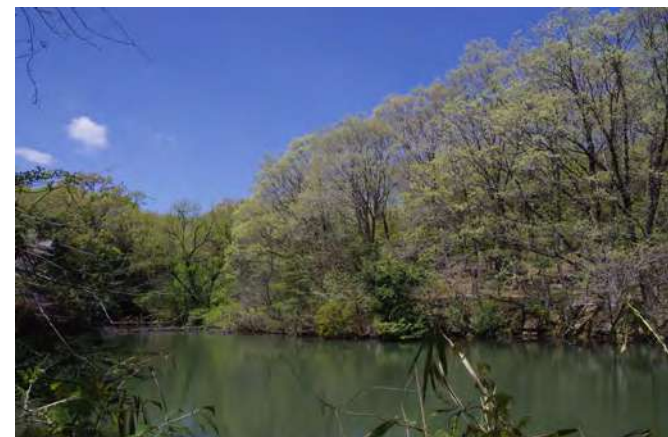


写真1  
ブイブイの森はコナラを主体とする夏緑二次林です。

当館研究員が講師となって、里山と生物多様性の保全の基礎を学ぶ連続セミナーが始まりました(現在までに第7期を開講)。2015年からは修了生が集まり里山の管理を本格的に開始し、2018年には任意団体「ブイブイの森クラブ」が発足しました。2018年には狭間小学校3年生の環境体験学習を支援するなど、間伐活動以外の活動にも精力的に関わっています。

ブイブイの森は四季折々の動植物の姿を観察できる散策路が整備され、都会の喧噪を忘れることの出来る場所となっています。ひとくから徒歩で訪れることが出来ますので是非お立ち寄りください。



写真2  
ブイブイの森のセミナーでは里山の植生についての調べ方も学びます。

## 皿池湿原の保全

三田市テクノパーク内に広がる里山には「皿池湿原」と呼ばれる有名な湿原が分布しています。皿池湿原は湧水湿地に成立した自然草原で、面積の異なる複数の湿原から構成されており、その総面積は県内で最大規模を誇ります。本湿原には兵庫県の絶滅危惧種に指定されている希少な動植物(サギソウなど)が数多く生息・

生育しています。また、その隣接地に分布するため池や森林、草原などにも複数の希少種が生息・生育しています。このため、本湿原とその隣接地は兵庫県版レッドデータブックのAランクおよび三田市・兵庫県の天然記念物に指定されています。これらの場所は三田市の都市公園である「皿池湿原公園」の中に位置しています。三田市は本公園の貴重な自然を適切に保全・活用するため、専門機関や地元住民、ボランティア(皿池湿原の守り人)、民間企業などと連携・協働しながら、植生管理や生物調査、普及啓発といった様々な取り組みを積極的に進めています。当館も専門的な立場からこれらの取り組みを支援しています。



写真3  
皿池湿原は絶滅危惧種・希少種の宝庫です。



写真4  
皿池湿原にはサギソウが群生しています。

## 三田市里山と共生するまちづくり条例

三田市は2018年12月に「三田市里山と共生するまちづくり条例」を制定しました。当館は、これに先立って設置された「里山の保全・活用に関する懇話会」に委員2名(うち1名は中瀬館長)を派遣するなど、専門的な立場からこの条例の案づくりを支援しました。本条例は里山と共生するまちづくりの基本理念を定めたもので、市内の里山の保全・活用をとおして人と自然、地域と地域、人と人が共生する、文化的で魅力的な成熟したまちづくりを実現することを目的としています。本条例には、近年、全国各地で問題となっている「里山への太陽光発電設備の設置」に対する考え方や規制の方針などもしっかりと盛り込まれています。このような内容の条例は全国的にみても珍しく、先進的なものです。三田市のホームページに本条例の全文が掲載されています。ぜひご覧ください。

橋本 佳延・石田 弘明  
(自然・環境再生研究部)



写真5  
皿池湿原ではボランティアによる保全活動が定期的に行われています。